

三角波

第4回：たかが握手、されど握手 【ボディランゲージ】

ラドリンさんには、これまで3回にわたり、【アイコンタクト】、【以心伝心】そして【沈黙は金】というタイトルでコミュニケーションに関わる日英の差異について、実話を交えながらお話いただきました。今月でラドリンさんとの対談は最終回となります。ふれあうコミュニケーションについてお話をお聞きし、4回にわたったシリーズを完結させていただきます。

三角波

時化た海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う



人事コンサルタント
パニラ・ラドリンさん

を求めませんでした。そして訪問先の日本人のマネジャーもなにやら中途半端な形で、しつかりと挨拶ができなかったという、すっきりしない思い出があります。その後、私は彼女に先に握手を求めた方がいいと助言しましたが。

飯塚 それはお辞儀の仕方についての質問でしょうか？

飯塚 (センタービープル) 少し前に、英国の銀行のテレビコマーシャルで大変面白いものがありました。これは英国人と日本人のビジネスマンが初対面で挨拶するという設定で、お互いが大変緊張している面持ちの中、日本人が右手を差し出して握手を求めると同時に英国人は深々とお辞儀をして…あわてた2人は、先ほどとはそれぞれ正反対の行動を同時にとり、またもやすれ違いが…東と西はなかなか交わらない！

ラドリン (ジャパン・インターカルチュラル・コンサルティング)

今話されたことはテレビコマーシャルでのことですが、実際に起こりそうな出来事ですね。私が異文化コンサルタントとして英国の会社で仕事をしていた時に必ず受けた質問があったのですが、それは、彼らが日本人のビジネスマンと初めて会うとき、また日本に出張する時のこのお辞儀という挨拶についてです。

ラドリン それもありますが、実際には初めての挨拶の時、握手でいいのかわからないというのがあると思います。この辺のところがかなり緊張を感じているようです。先ほど話されたようなコマーシャルなども、このような迷いを助長させてしまっているのかもしれない。実際には、日本のビジネスマンは西洋のしきたりをよく知っていてそれを実行しています。そのような背景から、私は初めての挨拶の時は握手から始めるようアドバイスをしています。

飯塚 握手に関して、もう一つ気がついたことがあります。私が英国人女性の同僚と会社訪問した時に実際に起こったことですが、どちらが先に握手を求めるとかという問題です。このときは私の同僚も少し遠慮したのか、自分から握手

ラドリン よく起こりうることだと思います。飯塚さんはその場で日本式にお辞儀で挨拶をされたのだと思いますから、同僚の方にとつても日本人マネジャーの方にとつても、その後すぐに握手というのは、自然な切り替えができなかったのかもしれない。これは聞いた話ですが、その背景の一つに、特に年配の日本人は、男性から女性に対して握手を求めるとは礼にならなっていないと教えられたということがあるようです。現代では、男性・女性というよりも一人として対等にお付き合いしていますから、握手という最初のコンタクトを積極的に取っていただく方がいいと思います。

飯塚 ラドリンさんが先ほど少しふれられました、実際に起きた握手に関するアクシデントについて、詳しくお話いただけませんか。

ラドリン この話は私の友人が働いていた会社で起きたことですが、日本から赴任したマネジャーに挨拶しようとした英国人が握手を求めるときの手を差し伸べ

たら、同時に日本人マネジャーはお辞儀をしました。運の悪いことに、出した手が日本人の目に当たるといふアクシデントとなったという話です。これは冒頭にあげたテレビコマーシャルと似た状況から生じた「事件」です。しかしこれには後日談があり、この日本人マネジャーはこの英国人に会うたびにユーモアたっぷりに顔を覆う仕草をして見せ、起きたことをボジティブな形でとらえたことにより、かえって2人の間には良好な関係が芽生えたのです。災い転じて：の良い例でしょうか。

飯塚 挨拶といえば、握手から始まり、抱擁、そして頬を寄せ合うなど、日本人にはなじみがない形の習慣が西欧社会にあります。我々も心の奥深くでは親近感を表すためにこのようなスタイルをかえって好ましいと思っているかもしれません。しかし日本人としては抵抗があつて、自然にできない部分がありますね。

ラドリン 基本的には日本人、英国人がそれぞれ持つ、個人が快適と思える自分の領域は似通っていると思います。英国人は人と相対した時、一定の距離を保ちたいと思つているようですね。たまたまパーティーで、まさに顔を寄せるように近づけて話している人達を見かけることがあります。しかしこの2人をよく観察すると、時間の経過とともに二人が部屋の中を移動していることがあります。

快適空間を維持しようとする一方は半歩ずつでも移動するのですが、逃げ切れない！このように距離を維持する習慣を持つ英国人と日本人ですが、どちらも子供の頃は距離を維持することはありません。それが大人に成長する過程で分岐点に立ち、やがて大きく二つに分かれますね。英国人の場合は、自分の感情を素直に出す方向性をそのまま継続しますが、日本人の場合は大人になると距離を保つ傾向にありますね。それがたとえ家族同士であつても。

飯塚 ただ日本人の場合も、西洋に負けず劣らず、親子の間が本当に密接であるとうかがえる成長過程の時期があります。例えば日本では、親子が同じ部屋に川の字になつて寝るとか。

ラドリン 私は、これからの若い世代の日本人の中に、自分の感情をもっと率直に表すことが生活習慣の一つとして出てくると思えます。西洋化するというよりも、正直な自己表現の結果として握手から抱擁へと移る。特に家族同士ではそのようなことも当たり前の時代になるのではないかと思います。

飯塚 4回にわたりましたラドリンさんとの誌上対談、今回で最後となります。日本と英国の複眼視点から、思いがけなく起きる事件、興味深い実例をあげながらお話いただきました。誠に有難うございました。



センター・ビープル代表取締役
飯塚忠治



Pernille Rudlin

European Representative

Japan Intercultural Consulting

人事コンサル、トレーニング

Phone/Fax 44(0) 1372 200 604

Mobile 44(0) 7867 806 539

pernille.rudlin@japanintercultural.com

www.japanintercultural.com

人材紹介のスペシャリスト

centre (people)
Recruitment Consultants

135 Cannon Street, London EC4N 5BP

Tel: 020 7621 3581 www.centrepeople.com